

教育目標		のびのびとわいわい活動する子どもの育成					
重点目標		1. 友達と共に遊び込む子どもを育成する保育を実践する。 2. 家庭や地域、小中学校、未就園児等と連携した保育を実践する。					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	・遊び込む子どもを育成する保育の実践。 ・保育力の向上と改善をめざした研究をすすめる。	・遊び込む子どもの姿を視点としたエピソード記録やカンファレンスを行い、遊び込む子どもを育成するために有効な教師の手立てについて探る。 ・学期に一度の保育を見合う園内研修を進める。	・エピソード記録を取りながら、遊び込む子どもを育成するために有効な教師の手立てについて見いだすこと、実践・検証を行う。 ・教職員アンケートで「園内研修で保育力向上につながる学びを得た」の項目でAとBを合わせた回答が8割を超える。	A	・エピソード記録をとり、それをカンファレンスすることで、遊び込む子どもを育成するために有効な、環境の構成や教師の援助について見いだすことが出来た。 ・カンファレンスを行うことで、子ども理解を深めることが出来た。また、話し合う中で、自分の保育の環境の構成や教師の援助などについて、課題を見いだすことが出来た。 ・今年度から幼稚園教育要領が改訂され、主体的対話的で深い学びにつながる保育の展開を職員間で話し合い、共通理解が進められた。各個人の課題はあるが、具体的な方向性が少し見えてきているように感じる。 ・教職員アンケートで「園内研修で保育力向上につながる学びを得た」の項目で各自重点を置いて取り組んだ結果100%の回答を得た。	・次年度は3歳児保育も始まることから、3歳児の教育課程や実際の保育などもみながら考えていくことが必要であると感じている。 ・今年度研究してきた遊び込む子どもの姿から見いだされた有効な環境の構成や教師の援助を実践していく。 ・次年度はさらに小学校教育要領等も改訂となるため、それにつながる幼小の接続についても一緒に考えていけるように働きかける必要がある。	・遊び込むことによって、友達とつながりを持つことになる。子どもが色々なことを考えられるように、教師は何をどう支援するかを考え、環境構成することが大切である。・昆陽小校区、それ以外の近隣の校区の子どもたちも在園する事になるが、引き続き近隣の小学校との連携を大切に取り組むことが重要である
	特別支援教育の推進・充実	・特別支援教育コーディネーターを中心として、一人一人のよさや違いを認め合い、共に育ち合う子どもの育成に努める。 ・チューリップ学級対象児だけでなく、個別の支援や配慮を必要とする子どもへの理解を深め、全職員で話し合い、保育を進める。	・個々の姿から個別指導計画を作成し、全職員で目標や支援方法を共通理解し保育を進める。 ・7月末と3月末に個別指導計画のまとめを作成し、支援方法の振り返りや子どもの育ち、ねらいへの達成度について全職員で評価する。 ・気になる子どもの姿を見、その都度全職員で意見交換し、学級経営に活かす。	・7月末と3月末に個別指導計画のまとめを作成し、支援方法の振り返りや子どもの育ち、ねらいへの達成度について全職員で評価する。 ・気になる子どもの姿を見、その都度全職員で意見交換し、学級経営に活かす。	A	・個別指導計画を作成し、それに基づいた保育を展開していく中で、また、短期案等にも個別の支援を具体的に、明確に入れていく中で、成長が見られ、それを全職員で共通理解することが出来た。 ・巡回相談等、専門機関とも連携を図り、子どもの姿を見ていただくことで、子ども理解が深められ、より的確な支援で子どもの困り感を減らすことが出来た。子ども理解を深め、それらに応じた、援助が行えるように引き続き、他機関との連携を図ることが必要であると考えている。	・個別指導計画については他機関とも連携を図りながら、より適切な個別の支援していく方法を探っていく。 ・一人一人を細やかに見ていくことに引き続き取り組みながら、特性に応じた支援のあり方やより効果的な手立てについて、職員間でも共有しながら進めていく。
豊かな心・健やかな体	・自尊感情や思いやりをばくくむ保育を実践する。 ・個人懇談、学級懇談、パースデークなどで子育てを振り返ったり、子どもの人権について考え合ったりする機会をもつ。	・一人一人の思いを受け止め、友達とのよさや違いを認め合う子どもの育成に努める。 ・個人懇談、学級懇談、パースデークで、子育ての中で自尊感情や一人一人を大切にすること等について保護者が振り返られる機会をもつ。	・保護者アンケートで、「子どもは幼稚園で、自信をもってできることが一つでもある」「子どもは幼稚園で、他の人に思いやりを持ちあつていける」という項目で、AとBを合わせた回答が8割を超える。 ・保護者アンケートで「個人懇談や学級懇談、パースデーク等で、子育てを振り返ったり、子どもとの自尊感情や子ども一人一人、保護者自身を大切にすることを意識している」という項目で、AとBを合わせた回答が8割を超える。	B	・保護者アンケートで、「子どもは幼稚園で、自信をもってできることが一つでもある」「子どもは幼稚園で、他の人に思いやりを持ちあつていける」という項目で、B回答の割合が多かった。思いやりを持つことができる子どもの具体的な姿が園内で見られていることを、保護者にもっとアピールしていくことの必要性を感じている。 ・保護者アンケートで「個人懇談や学級懇談、パースデーク等で、子育てを振り返ったり、子どもとの自尊感情や子ども一人一人、保護者自身を大切にすることを意識している」という項目で、AとBを合わせた回答が8割を超える。 ・日々の生活に追われていることが多い保護者も多い中で、幼稚園で子育てを振り返る機会があることで、子どもの、また、自分自身の人権について考えることに繋がっていると感じる。そこで気づいたこと、感じたことが継続して実践できる事が意識できるように啓発していきたい。	・子ども一人一人が自信を持って取り組めること、見てほしい、聞いてほしいと思うことがよりたくさん保育の中に取り入れられるように計画していく。 ・身近な幼稚園での様子から、子どもの頑張りを伝えていくなど、個々の保護者と話す機会を多く持ち、意識の改革がはかれるよう啓発していく。	・劇遊びの中でも見られたように、一人一人の子どもが生き生きと活動していた。そこには、教師の自信につながるような言葉がけがあったのではないと思う。これからも子どもの自信につながるような声かけをしてほしい。 ・子どもたちは幼稚園の時期に褒められる体験を多く積んでほしい。そのために、教師も保護者も子どもたちのことを肯定的に見られる機会をもち、視点を意識し出来るように啓発していくことが大事だと考える。
	子どもの健やかな体づくりの推進	・基本的な生活習慣を確立させる。	・けんごうカレンダーやレッドコート検査、食育研修会など、保護者と共に取り組む機会をもつ。	・保護者アンケートで「子どもの基本的な生活習慣の確立に向けて、健康カレンダーを活用して家庭で意識して取り組んでいますか」という項目で、A、B合わせて8割を超える。	B	・保護者アンケートで「子どもの基本的な生活習慣の確立に向けて、健康カレンダーを活用して取り組んでいますか」という項目で、A、B合わせて100%の回答を得た。 ・基本的な生活習慣において、わかってはいるけれど自分から率先して行うことが出来ていない場面も見られていた。保健の話や健康カレンダーなどで、時期に合わせて意識することを啓発してきた。それを保護者と共有できるようにホワイトボードなども活用し、取り組んでいる。	・引き続き、健康カレンダーも活用しながら、家庭での生活習慣も確立できるように啓発していく。 ・3歳児の基本的な生活習慣の確立に向けて、視点やポイントとなる手立てなどを職員間でも共通理解しながら行っていく。
開かれ信頼される学校園	園の情報や教育活動を保護者や地域に積極的に発信する。	・玄関ホールのホワイトボードで日々の様子を発信する。 ・クラスだよりを発行し保育の取り組みのわらわらや意図を保護者に伝える。 ・ホームページを行事ごとに更新することにより、園の様子を発信していく。	・ホームページを行事ごとに更新することにより、園の様子を発信していく。 ・ホームページを行事ごとに更新することにより、園の様子を発信していく。	B	・ホワイトボードで、毎日保育の一部を紹介し、発信することを継続できた。 ・クラスだよりは必要最低限の回数発信し、保護者にも今のクラスの様子を伝えることが出来た。 ・保護者アンケートにおいて、「玄関のホワイトボードや、クラスだより、ホームページなどで子どもたちの育ちや保育内容がわかりやすく発信されている」と思っています。この項目の回答が8割を超えています。 ・ホームページは行事ごとに更新することを心がけているが、多忙すぎてタイムリーに更新できなかったことが多かった。	・引き続き、ホワイトボードやホームページなどで園の様子や状況がわかるような発信をしていく。 ・必要に応じてクラスだよりも発行し、遊びの取り組みの過程を子どもが伝えられるきっかけになったり、思いに共感してもらったり出来るようにしていく。	・今、取り組んでいることを引き続き継続し、幼稚園の情報発信を行ってほしい。
	地域との交流	・地域の幼稚園として、いろいろな機会を通して地域の方とのかかわりを広げ、深めていく。 ・小学校、中学校、未就園児など地域と共に育ち合う教育内容の工夫に取り組む。 ・地域の方が幼稚園を知る機会を設け、「幼児教育センター」的役割の充実を図り、子育て支援を行う。	・苗圃を活用する会の地域ボランティアの方、地域の会の方との交流の機会を設ける。 ・未就園児、小学生や中学生と園児が交流する機会を計画し、幼稚園活用を促進する。 ・幼稚園で遊べる機会をもつて持つよう計画する。	・地域との関わりが継続してできるように計画を進めることが出来たか振り返る。 ・未就園児への積極的な園庭開放や自由参観などに取り組む。 ・未就園児と関わって遊ぶ中で3年保育を視野に入れて園内の環境等も計画していく。	B	・敬老の集い、もちつきにはたくさん地域の方が来園され、子どもとともに楽しむ機会を持つことが出来た。 ・来年同じクラスになるさきは幼稚園園児と交流することで、顔や名前を覚え、関わりが深められた。 ・小学校・中学校との連携は、回数少なかつたが、充実した連携を図ることが出来た。又、教師間の連携が深まり、互いの思いを出し合う中で、異職種への理解を深めることができた。	・子どもに経験させたいことの軸をしっかり持って参加方法や活動内容を決めていけるようにする。 ・新人児・転園児がたくさんいる中で、一つ一つのことにいきめ細やかに対応できるように心がけていく。 ・引き続き、小学校や中学校との連携を図り、子どもがあこがれの気持ちを持ってもらうよう、教師間でもより連携が深まるように計画していきたい。

<p>学校関係者評価総括</p> <p>・次年度に向け、3歳児保育、他園からの転入など、今までになかった事がたくさんある。その中で、一人一人を大切にきめ細やかな保育を行ってほしい。 ・年齢に応じた環境の中で、子どもたちが色々な活動に自信をもって取り組めるように計画し、環境の構成や教師の援助を整えてほしい。</p>
<p>次年度に向けた重点的な改善点</p> <p>・次年度、取り組み始めてみなければわからないこともたくさんあるが、計画的に物事に取り組み、実態を見極め、再構成していくことが大切であると考える。 ・子どもも保護者も自尊感情が高められるように、保護者とも今まで以上に十分な連携をはかり、努めていきたい。</p>